

## 令和4年度 産民学官・政策課題共同研究 Q&amp;A（自治体用）

## 【共同研究の概要】

Q1 共同研究の目的は？

A1 県内自治体が直面する政策課題について、産民学官それぞれの主体が持つ人材や情報、ノウハウ等を活用し、組み合わせることで、地域課題の解決に役立つ実践的な政策提言を行い、構成団体の政策形成・政策立案を支援します。また、共同研究を通じて職員の政策形成能力の向上を図るとともに、企業・NPO・大学・自治体職員の多様な価値観の交流を図ることで、地域課題の解決に役立つ人材を育成します。

Q2 活動期間、頻度はどれくらいか？

A2 活動期間は約10か月です。頻度は月1～2回程度です。

Q3 研究会1回当たりの所要時間はどれくらいか？

A3 通常の研究会は1回当たり7時間程度です。ただし、育児や介護等の事情がある場合には短時間の参加も可能です。

Q4 活動場所はどこか？

A4 通常の研究会は自治人材開発センター（JR土呂駅徒歩5分）、成果発表会は埼玉県県民健康センター（JR浦和駅徒歩15分）で開催する予定です。オンライン開催の場合は各研究員の職場や自宅を想定しています。

Q5 全ての回（時間）に出席しないといけないのか？

A5 業務上都合がつかない時や体調不良の時などは欠席していただいて構いませんが、共同研究を円滑に進めるために特段の事情がない限りは出席をお願いしています。なお、申込後に諸般の事情により研究参加継続が困難となった場合はご相談ください。

Q6 研究員の所属に対する活動日程の連絡はどのように行うのか？

A6 別紙年間スケジュール表でお示しするほか、各回、各研究員の所属長宛てに広域連合事務局長名で研究員の派遣依頼文を送付します。

Q7 研究日のサービスの取扱いは？

A7 各団体のサービス・就業規則等に従うこととなりますので、各団体の研修担当課等にご確認ください。また、事故等が起きた場合は各所属団体の規程による対応となります。

Q8 研究に係る経費は？

A8 研究会、成果発表会の会場への旅費は各団体に負担していただきます。それ以外の研究に係る経費（フィールドワーク時の旅費や報告書印刷代等）は当広域連合が負担します。

※ オンライン開催に要する費用（通信費用、関係機器類等）は各団体又は研究員負担となります。オンライン開催に必要なものについては Q18、Q19 をご覧ください。

Q9 研修記録（人事記録）に残るのか？

A9 各団体の扱いによりますので、それぞれの研修担当課等にお問い合わせください。

### 【共同研究の進め方】

Q10 研究会はどのように進めていくのか？

A10 月1～2回程度、研究テーマについて議論し1つの研究をまとめていくための場として研究会を開催します。研究会の中では、コーディネーターや外部講師からの講義、グループワーク、フィールドワーク等を行っていきます。

Q11 研究成果をどのような形でまとめるのか？

A11 「研究報告書」として冊子にまとめます。報告書は研究員の皆様に分担して執筆していただきます。

Q12 研究する以外に、発表などはあるのか？

A12 成果発表会において、研究成果の発表を予定しています。必要に応じて、研究成果の説明を関係団体等に対して行うことがあります。

Q13 先進地等視察・調査を行うことはできるのか？

A13 研究上必要な視察・調査は広域連合の予算の範囲内で可能です。

Q14 研究用の図書の購入はできるのか？

A14 研究上必要な図書の購入は広域連合の予算の範囲内で可能です。  
なお、研究終了後は広域連合の蔵書となります。

### 【共同研究への参加】

Q15 研究テーマが現在従事している業務と関連がなくても参加できるのか？

A15 研究テーマに関連しない部署の方もご参加いただけます。

Q16 一団体から複数人数の研究員が参加できるのか？

A16 可能です。ただし、全体の研究員の人数の状況等により人数を絞らせていただく場合があります。

### 【オンライン開催】

Q17 研究会のオンライン開催とは？

A17 各種インターネットツールを活用し、オンラインで研究員相互のコミュニケーションを取りながら進めるスタイルの研究会です。

**Q18 使用するインターネットツールは何か？**

A18 Web 会議システムとして Zoom を使用します。また補助的に Slack や Google ドライブを使用します（いずれも無料版）。使い方はご案内しますので、使用したことがない方もご参加いただけます。

- ※ Zoom … リアルタイムメッセージのやりとり、コンテンツ共有の可能なテレビ会議アプリ。
- Slack … チームのメンバーがオンラインで双方向的なコミュニケーションをとることができるチャットサービス。
- Google ドライブ… Google が提供するオンラインストレージサービス。オンライン上でデータを共有する際に使用。

**Q19 どこに何を準備すればよいのか？**

A19 ブロードバンドでインターネットに接続可能な PC、Web カメラ・マイク付きヘッドフォン（PC 備付けのカメラ、スピーカー、マイクでも可）が必要です。インターネット回線及び関係機器類は各団体又は研究員負担とし、場所は各研究員の職場（会議室）や自宅を想定しています。

**【令和 3 年度 参加者の声】**

- ・ 自治体の方と多くの時間共通の課題で話し、政策提言に至る工程を学ぶことができ、非常に勉強になりました。民間では経験できないことを経験できました。（民間企業社員）
- ・ 通常の業務の中では、関わるできない分野の方々と交流でき、新しいことを知ることができた。（自治体職員）
- ・ 「地域づくりの担い手創出」というテーマについて、牧瀬先生の講義やチームワーク、事例調査など様々な方法による研究を通して、自身の知識を深めることができました。（自治体職員）
- ・ 統計資料の重要性、また、コロナ禍における Zoom を活用したオンライン研究等、非常に有意義な研究でした。参加してよかったです。（自治体職員）
- ・ 共同研究によって、他の団体職員の普段とは異なった意見を聴いたり、研究プロセスについて学ぶことができた。（自治体職員）
- ・ 分かっていたつもりになっていたことが良くわかっていないということに気づかされた。新しく得た知識もたくさんあるが、初心に帰って確認できたことも多かった。また情報の取得・分析の方法については、非常に意義深いものであった。（自治体職員）
- ・ 社内の業務で自治体へ事業提案する際のプレゼンにおいて、共同研究で学んだことが役立ちました。（民間企業社員）
- ・ 情報収集や分析については、自身の受け持つ団体の運営等で何が課題で今後の方向性をどのようにしたらよいかなど考え提案することができました。団体の自走に向けて一歩前進できたと思います。（自治体職員）